

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームきたがた
(ユニット名)	あんずユニット
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市北方町大字志久4531-18
記入者名 (管理者)	佐藤文子(管理者)
記入日	平成 20年 3月 12日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「自分らしく、ほがらかに」という地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援していく理念を、全職員で協議し作り上げている。</p>	<p>理念の達成のため、さらに職員一人一人の意識を高めていきたい。</p>
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は、理念について日々話し合い、具体化し理念の実践ができるように取り組んでいる。</p>	
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関壁の見やすいところに明示し、入居時に説明を行ったり折に触れ、家族や地域の方に説明をして理解してもらえるよう努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の時は気軽に挨拶を交わしている。広報誌の配布や暮れの挨拶など日常的なつきあいに努め、お月見会や映画鑑賞会、納涼祭などに参加をしてもらい交流を深めている。</p>	
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>年3回の溝掃除に参加をしている。地元の公園のお祭りや町の盆踊り、物産祭りなどに参加し、地元の方々との楽しい交流に努めている。</p>	<p>老人会などにも参加をしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	物産祭りで出展コーナーを設けてもらい、介護保険制度のことなど相談に応じている。運営推進会議に地域の区長さんに参加してもらい、地域の高齢者の状況やこれからのことなど話し合っている。	○	運営推進会議のなかで、地域の高齢者の暮らしに役に立つ取り組みがないか話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な改善すべきことを本人や職員間で話し合い、取り組んでいる。	○	外部評価、自己評価とも日頃の自分たちのケアを見つめなおすいい機会となっており、指摘があったことは、これからも話し合い改善につなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の入退居状況や取り組んだ行事、職員が参加した研修、2ヶ月間にあった主なこと、外部評価の指摘事項などを報告し、話し合い助言をいただいている。話し合った内容は毎回会議録に残し職員に伝えている。必要に応じ話し合いサービスの向上に活かしている。		これからも、サービスの向上に向けた話し合いや指導を仰いでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の中で、助言やご指導をいただいている。疑問や問題点が出てきたときは、市町村へ伺い、意見の交換を行ったり、助言をいただいたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	本人やご家族、親戚の方々と十分に話し合い、理解の下、職員間でも学びながら、その方に必要な支援をおこなっている。		これからも、職員間で学び合いながら、必要な方がいたら必要性を話し合い、活用できるように支援を行っていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や会議の場での研修発表等で学ぶ機会を持っている。また学んだことを個々の職員が意識しケアに当たっており、防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族や本人にホームの造りや様子を見ていただき、契約を行うようにしている。契約書、重要事項説明書に沿って分かりやすい説明に努め、不安や疑問点には、理解、納得を得るように対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や不満を出せるような、雰囲気作りや関係作りに努めている。意見や不満にはすぐに対応するようしており、家族や全職員に伝え共有している。		日常の関わりのなかで、意見や不満を汲み取っていきけるように、職員の意識をさらに高めていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に個々に合わせた報告を行っている、急ぎの時は電話で報告をしている。また広報誌を手渡している。職員の移動等のお知らせは、玄関に掲示板を設け掲示している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見・苦情箱を設置し、第三者苦情窓口の掲示をしている。アンケートを全件に郵送し、家族懇親会にて報告を行い要望、苦情等の意見交換の場を持っている。運営推進会議のなかでも家族の意見をいただき運営に生かしている。	○	サービス担当者会議の際など、家族から意見、不満、苦情が言い出せるよう、こちらから働きかけていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員からの意見や提案があっており、日頃より意見を聞くようにもしている。必要に応じて運営者に報告し、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活に合わせた、勤務時間の調整を行っている。外出や行事の日は基準以上の人員を確保し、安全で楽しい外出や行事が行えるように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。職員の異動等があったときは、利用者への関わりをいつもより密にしたり、ダメージへの配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階に応じた研修への参加がっており、会議の時全職員への報告を行っている。法人でも研修を開催しており参加している。</p>	<p>○</p> <p>法人で各資格取得に向けた勉強会が予定されており、ホームからの参加も予定している。これからも研修に参加し、認知症ケアの理解を深めていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の宅老所の行事へ利用者と一緒に参加をしたり、ホームの行事に参加をしてもらったりしてネットワーク作りに努めている。また協力を仰いだり、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>他グループホームへの訪問研修やグループホーム間での研修や交流を行っていくことを話し合っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員個々の状況把握に努め、個別面談の機会を設け、職員のストレス軽減に取り組んでいる。</p>	<p>職員のストレスに配慮し、対応を行っていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員の努力を把握し、向上心を持って働けるよう、法人での勉強会の開催や職員の研修参加に努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至る前に、本人に必ず会いに行き、話をするなかで、思いや求めていることなどを聴いて受けとめるように努めている。全職員に伝達をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学の際や、入居申し込みに来られた時に、介護で困っていることや求めていること等をよく聴いて、家族の抱える思いを受けとめるように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容を聴いて、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の事を分かりやすく説明している。ケアマネジャーが同席し対応することもある。		必要に応じ、在宅や併設施設のケアマネジャーに繋ぐようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の入居に対する気持ちを確認し、必要に応じて、家族と話し合い定期的な自宅への外泊をしながら馴染んで頂くなど、その方に応じた工夫に努めている。	○	ショートステイを開始する準備を整えており、ショートステイを利用しながら馴染んで頂く等の対応も行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の昔のことや、体験してきたことなどいろいろと教えていただいている。怒ったり、悲しんだりされている時は、職員も共にするよう努め、職員が利用者に意見を求めたりして支えあう関係を築いている。		これからも、支えあう関係は、職員個々の尊厳の意識を高め、大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、状況報告に努めており、話し合いながら一緒に支えていけるように努めている。気持ちも話して下さる家族が多く、職員も共有に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解したうえで、本人の家族への思い、言われた言葉などを伝え、良い関係が築けるように努めている。家族の思いも伝えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問が多く、これからも気軽に尋ねて頂く雰囲気作りに努めていきたい。家族と話し合い、受診の帰りに自宅に寄ってもらったり、お墓参りなどにも今までどおり連れて行ってもらえるよう努めている。デイサービスやヘルプとの関わりもある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係ができていない人もおり、大切にもらっている。自分から関わりを持つことができない人には、職員が関わり、利用者との会話やレクリエーションに参加し楽しく過ごして頂くように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、他施設に移られてからも会いに行き、喜んでもらったりしている。また状態を聞いたりしている。		支援を必要とする方がいたら、支援を継続していきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、希望や意向を聞くように職員が意識をしており、新たに分かったことは職員間で共有するように努めている。	○	東京研修センターのアセスメントシートを活用していくようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、日々の過ごし方やこれまでの生活歴、サービスの利用等について、アセスメント用紙に記入し、職員間で共有できるようにしている。入居されたあとも把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人のケースに一日の過ごし方や心身状態、その日に取り組まれたことなど毎日記入し、把握に努めている。職員は休日のことも読めるようになっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞いたり、職員間で課題を話し合い、担当者にケアチェック表を作成してもらい、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	○	東京研修センターのアセスメントシートの使用を検討したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヵ月ごとの見直しを行っている。変化があった場合は本人、家族、関係者と話し合い見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースに、日々の様子やケアプランに沿った記録、気づきなどを記入し、変化があったときは申し送りノートで情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族から要望があったときは、柔軟な支援を話し合い、行っていきたい。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の絵画教室より先生や会員の方が、月に1, 2回絵の指導に来られている。行事のときはときどき、歌や踊りのボランティアをお願いしている。消防の避難訓練指導や区長、民生委員の方の訪問があつている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性に応じて、主治医や他ケアマネジャーソーシャルワーカーと話し合い、その方に合った地域の老人施設を利用してもらったりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はまだあつていないが、家庭裁判所の指導のもと権利擁護の支援を行っている。		地域包括支援センターとの協働を考えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族の希望を聞きながら、なるべくかかりつけ医の受診を続けられるように話し合っている。受診が困難なときは、往診をお願いしてもらい、これまでと変わらない医療を受けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設施設に専門医の往診があっており、職員が利用者を受診に出向いたり、家族に紹介をして、認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤で勤務しており、利用者の健康管理や服薬管理、変化があった時の医療機関への連絡等支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には、看護師が面会に出向き、容態説明を受け情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、かかりつけ医、家族と今後の方向性を十分に話し合い、方向性に沿ったケア方針を共有している。	○	今後も研修会に参加するなど、終末期に対する職員の意識の向上を図っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの研修会に参加し、チームとして重度や終末期の支援に取り組めるよう準備を行っている。	○	ホーム独自でも勉強会を行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先の関係者と面談にて情報交換を行い、住み替えによるダメージが少しでも防げるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳とプライバシーの尊重を職員は常に心がけ利用者に接している。守秘義務を守り、記録物は事務所に保管している。	○ 言葉かけや対応に問題が感じられるときは、職員間で注意を促していけるように、意識の向上を図っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	昔好きでやっていたことや今やりたいことなど折にふれ尋ねている。誕生日にはその方が食べたいものを聞いて提供している。その方の分かる力に合わせ、要望がさらに引き出せるよう努め、その方らしい生活が送れるよう支援していきたい。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションのときは、やりたいことを尋ね行っている。参加をされない方は無理強いをせずに、読書や計算などに取り組まれている。自分で外気浴に出られたり、室内散歩に励まれたりもしている。自分のペースで過ごされるよう支援してきたい。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方のおしゃれのセンスを大切にしながら、さりげなく声をかけて着替えてもらったりしている。誕生日のプレゼントに、似合いそうな服やスカーフを贈ったりしている。理美容は利用者や家族の希望に沿って行っている。訪問美容院を利用される方が多い。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やつぎ分け、食器洗いやテーブル拭き、掃き掃除などいつも一緒に行ってもらっている。その方の好みでそれぞれに自分から手伝われている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は好みで提供している。たばこを食後に吸うのを楽しみにされている方がおられ対応している。家族からの差し入れのおやつは個別に提供し楽しんでもらえるようにしている。	ウッドデッキでお茶をゆっくり飲む機会を増やし、なおいっそう楽しい時間にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を付けており、夜間は特に、トイレ声掛を行い失禁を事前に防ぐなど、それぞれに合った支援に努めている。職員間でその方に合った排泄パターンをよく話し合い、共有して行うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否されるときは、次の日に入ってもらうなど対応している。プライバシーに気を配り行っており、ゆっくり入浴を楽しまれている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて、昼食後に1時間ベッドで休んでもらったりしている。その日の体調により安心して休んでもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前に、その方の生活歴や趣味などを聞くようにしており、日々の生活の中での役割や楽しみは重視し支援を行っている。		さまざまな役割や楽しみを支援できるようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、お金を所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	紅葉を見に行きたいと言われ、紅葉見学にドライブに出かけたり、有明海に行きたいとの希望で他の利用者もさそい、有明海を見に行ったりしている。併設施設の行事に出かけたりもしている。		環境に恵まれており、気候がいいときは散歩を楽しんでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣や桜見学、紫陽花見学など季節を感じていただけるような外出を、ほとんどの利用者に参加してもらい行っている。個別には買い物と一緒に出かけている。またその方の要望を家族に伝え、一緒に出かけられるよう支援している。	○	地元のトロッコレースの応援など楽しい外出も行っており、地域の運動会への参加も話し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった時は、対応しており、家族と話をすることで落ち着かれる。遠方の家族やなかなか来れない兄弟より電話がっており、喜ばれている。	○	手紙の支援を行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問がよくあっており、これからも気軽に訪問してもらい、本人と居心地よく過ごしてもらえるよう対応していきたい。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を理解し、ケアをしていく中で、身体拘束となっていないかを考えながら支援するように努めている。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を改めて全職員で学びたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけず、利用者が自由に行き来できるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に周囲に目を配り、職員間の声かけを行い、利用者の所在や様子の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の希望や状態に応じ、ハサミや湿布など居室に所持してもらい、常に物品確認の注意をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の勉強会や回覧物で知識を学び、事故が起きたときは、事故報告者を必ず提出し、一人ひとりの状態に応じた、事故防止の対応策を会議の場で全職員で話し合い、実行するようにしている。		ホームに法人の事故対策委員会のメンバーがおり、指導、助言があっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームに消防署の方に来てもらい、利用者もまじえ、救急蘇生法の勉強会を行った。年に2回、防災訓練を実施している。	○	これからも、定期的に消防署に依頼し、勉強を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練で利用者の避難方法を学んでいる。また法人全体の連絡網があり、通報訓練を実施している。	○	地域の方の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクについて家族に説明し、職員間でも対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや入浴、食事摂取、日常の生活の中で変化や異変がないか気がけており、気づいた時は看護師にすぐに報告し対応している。職員間でもすぐに情報を共有している。		起こりやすい異常について学んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬説明書を、個別のケースに綴じて理解しており、必要な時はすぐに見て対応している。薬分けは看護師が行っており、服薬には細心の注意を払っている。		誤薬がないようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解し、排泄チェック表に記入し対応をしている。水分を多めにとってもらうよう促したり、身体を動かすレクに取り組んだりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っており、その方に応じた支援をしている。困難な方には、歯科の先生に対応してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかずをほとんど残されていた方に井風にして提供するなど、その方に応じた支援を行っており、皆様ほとんどよく食べられている。食事、水分摂取量は記録している。		献立のメニューは、併設施設の管理栄養士が立てている。利用者の希望があれば取り入れてもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人に感染症予防対策委員会が設置されており、ホームにもメンバーがあり、取り決めの指示があり、実行している。週に1日感染症予防のための掃除日を設け、リネン交換、毛布干し、冷蔵庫掃除、畳拭き、消毒等を実施している。		インフルエンザの予防接種は、利用者、職員とも全員実施している。毎月1回、職員の検便検査を実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	予防のため毎晩、台所、調理器具の消毒を行い衛生管理に努めている。食材は毎日、使用する分が届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇には、季節に応じた花が植えてあり、玄関や玄関内には利用者と生けた花や一緒に作った小物が飾っており、安心して出入りができる雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今は雛人形が飾られており、華やいだ雰囲気がある。また季節の花々が思い思いに飾っており、居心地のいい空間になっている。		外の山や景色もきれいで、四季折々の景色を楽しめ、心が和む場所作りになっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、畳の間でひとりで過ごしたり、気の合った利用者で過ごしたりされている。思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やテーブル、写真を持ってこられており、居心地よく過ごせる工夫をしている。これからも本人や家族と話し合い工夫をしていきたい。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	10時と3時に換気を行っている。外気温と大きな差が生じないように、温度計を見て調整を行い、衣類をはおってもらうなど配慮している。		床暖房も使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、常に整理整頓ができています。廊下やトイレには手すりを設置し、自分で安全に移動などができるように工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室にはそれぞれに違う手作りの表札があり、トイレにも手作りのものを付けている。居室が分からない方のために、目印を付けたりして分かる工夫をしている。大きく名前を貼るときには本人や家族の了解を得ている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキや玄関先で、ゆっくりくつろいだり、日光浴や歌を歌ったりされている。畑や花壇に水やりをしたり、収穫を楽しまれたりもしている。		きれいな空気を吸って、元気に過ごしていただきたい。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全員の入居者様が「自分らしく、ほがらかに」地域に根ざし暮らしていただけることを目標に、全職員が取り組んでいます。